

さがみおおやまとこせんりゅう

#40 相模大山と古川柳

作者：根本行道（ねもと・ゆきみち 1903-没年不明）

刊行：昭和44年（1969）

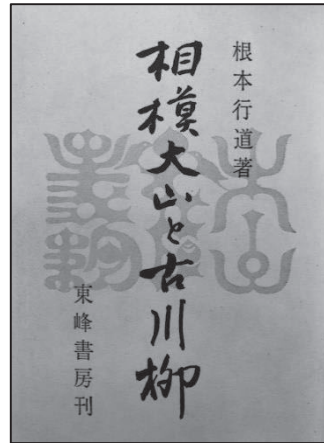
📖 解題

■ 内容

著者のはしがきによると、『川柳大山みやげ』を底本として両先生の解説を尊奉しながら、大山寺の略史や大山開山の伝承、行事、御師と講との関係などをつけ加え、いくぶんでも大山の正しい姿を紹介しようと試みた」とあり、「大山詣で」習俗に関する略史、伝承、行事等を取りまとめた「伝承行事篇」と、相州大山に関する宝暦7年（1757）から江戸末期の古川柳を収録した資料である『川柳大山みやげ』を増補した「古川柳編」の2編で本書は構成されている。

「伝承行事篇」については、「大山町の話」、「大山寺の話」、「開山良辨僧上」、「中興願行上人」、「御櫃神事の話」、「大山の天狗」、「筒粥占いの話」、「雨乞いの話」、「らいごう谷」、「御師の話」、「大山能の話」、「大山詣での道」、「江戸文学における大山」、「古川柳と大山」の14項目にわたり、『新編相模風土記』や『相模大山縁起及文書』、『伊勢原町勢誌』をはじめとする資料や大山の先導師および大山寺山主などから見聞したことなどがまとめられているほか、大山道や史跡周辺に関して、本書執筆当時の様子を記している。

「古川柳編」については、昭和2年（1927）に安藤幻怪坊が編じ、昭和32年（1957）に岡田甫が増補改訂した『川柳大山みやげ』を底本としてい



[K93.64/1]

る。本書は、「年代にかかわらず江戸の市井から品川、川崎、神奈川、藤沢、子安、大山と石尊詣道中順」に配列され、『川柳評万句合』、『柳多留』、『柳多留拾遺』、『川傍柳』、『末摘花』などから川柳を採取し、解説を付与した資料である。本書では、底本の序文や巻末記載の「安藤幻怪坊について」などは掲載せず、また、掲載句を、217句から231句へと増補し、一部不明となっていた句の出典を明記している。解説に関しても、底本を引用しつつ大幅な加筆修正を行い、それに伴った項目名および句の配列の変更が多数見受けられる。

■ 作者

作者は根本行道。秋田市出身。昭和4年（1929）東京山手急行電鉄株式会社入社。会社の合併により昭和23年（1948）より小田急電鉄株式会社で開発・宣伝・観光関係事業を担当した（奥付「著者略歴」より）。

小田急電鉄株式会社在職時は、山岳写真家・記録映画作家である塚本閣治氏の丹沢映画の撮影に関わるなど、丹沢の開発紹介などに尽力したことから、丹沢についての造詣が深く、『山と溪谷』や『山と高原』などの山岳関係の雑誌への寄稿や座談会への参加記録などが残っている。定年後は山村民族の研究をつづけた。

参考文献

<底本>

『川柳大山みやげ』安藤幻怪坊編 坂本書店 1927 [K93.61/4]

『川柳大山みやげ』安藤幻怪坊編 岡田甫補訂 有光書房 1957 [K93.61/4A]

<参考文献>

根本行道「相州大山の話」（『あしなか』77 山村民族の会 1962）

※当館所蔵なし

国立国会図書館デジタルコレクション(図書館送信対象)で閲覧可